

2016年（平成28年）

6月17日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所  
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)  
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階  
ホームページ <http://oil-info.ieej.or.jp>

## ■ 概況

6/2～6/8のNYMEX・WTIは、6/2のOPEC総会が生産目標の合意を見送ったにもかかわらず、ナイジェリアやカナダからの供給不安もあり、比較的堅調に推移し、48ドル台半ばから、6/8には11ヵ月振りの51ドル台の高値を記録した。

6月9日は、連日の上昇を受けた利益確定売りや為替市場でのドル高により、4営業日振りに反落した。7月限の終値は、前日比0.67ドル安の50.56ドルとなった。

週末10日は、前日に続き、ドル高・ユーロ安の割高感、利益確定売りから、続落した。7月限は前日比1.49ドル安の49.07ドルで終了した。

週明け13日は、ナイジェリアからの供給不安が下支えしたものの、英国のEU離脱懸念や中国経済統計の伸び悩み、米国の掘削リグ稼働数の2週連続増加等から、3営業日続落した。7月限の終値は、前週末比0.19ドル安の48.88ドルとなった。

14日は、IEA(国際エネルギー機関)月報の2016年後半における原油需給の均衡見通しにもかかわらず、23日の国民投票を前に英国のEU離脱懸念による安全資産への乗り換えやドル高・ユーロ安の進行による原油の割高感から、4営業日続落した。7月限の終値は、前日比0.39ドル安の48.49ドルだった。

15日は、EIA(米エネルギー情報局)の米国石油週報で原油在庫の減少が市場予想を下回ったことから、続落したものの、ガソリン在庫の予想を上回る減少、米国利上げの先送りに伴うドル安による原油の割安感による買いも入り、7月限の終値は前日比0.48ドル安の48.01ドルとなった。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(7月

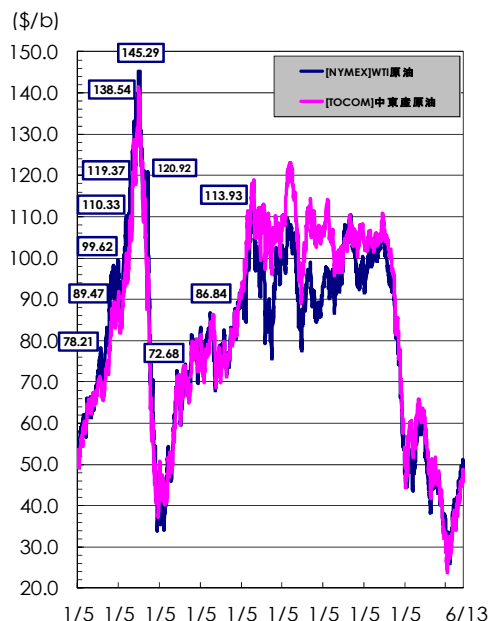
渡し)は、前週も46～48ドルで推移した。9日は49.00ドル、10日は48.00ドル、13日は46.40ドル、14日は46.40ドル、15日は45.70ドルと値下がりの方向で推移した。

為替は、前週は109～107円台と狭い範囲で円高気味に推移した。9日は106.72円、10日は107.10円、13日は106.46円、14日は106.08円、15日は106.12円と円高で推移した。

主要元売会社の6月第3週に適用するガソリンと中間留分の卸価格は、据え置きだった。原油は値上がり、為替は円高で、原油コストは小幅な値上がりだった。

そのような中で、6月13日時点の小売価格は、ガソリンが1.1円値上がりの123.6円、軽油は0.7円値上がりの103.5円、灯油は0.5円値上がりの64.0円だった。ガソリンは14週連続の値上がり、軽油は5週連続の値上がり、灯油は3週連続の値上がり。この週の原油コストは横ばいだったが、元売りの卸価格も値上がりし、小売価格への転嫁が進んだ。

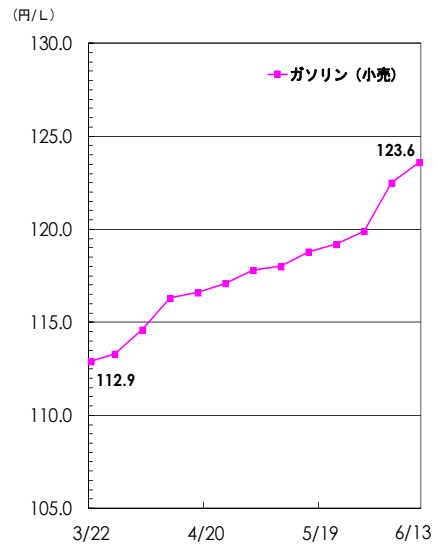
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	6/5 ~ 6/11	3,302 ▲70	▲ -
	トッパー稼働率 (%)	"	77.7 ▲1.6	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	6/11	15,296 ▼-159	▲ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	6/13	45.82 ▼-0.35	▼-16.3
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	6/13	48.88 ▼-0.81	▼-10.6
	原油CIF単価 (\$/bbl)	5月中旬	41.08 ▲1.69	▼-18.29
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	28,071 ▲877	▼-16,538
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	108.65 ▲1.10	▲10.81
	外国為替TTSレート (¥/\$)	6/13	107.46 ▲0.09	▲17.04



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	6/5 ~ 6/11	1,004 ▼-38 ▲	-	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	933 ▼-55 ▼	-	
	輸出	"	40 ▼-7 ▲	-	
	在庫	6/11	1,860 ▲31 ▲	-	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	6/7 ~ 6/13	45.1 ▼-0.5 ▼	▼-19.9	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	6/7 ~ 6/13	45.8 ▼-0.3 ▼	▼-20.0
		(TOCOM/中部)	6/13	44.0 ▼-0.5 ▼	▼-21.2
	小売 [週動向] (資工庁公表)	6/13	123.6 ▲1.1 ▼	▼-20.9	

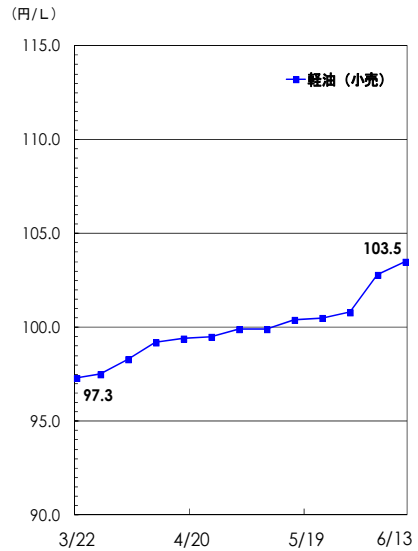
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

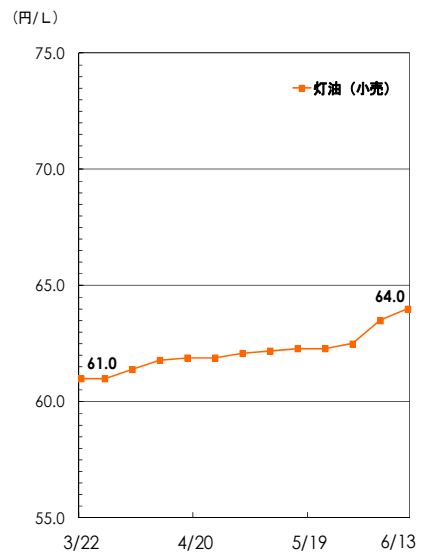
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	6/5 ~ 6/11	693 ▼-59 ▼	-	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	562 ▼-75 ▼	-	
	輸出	"	78 ▼-212 ▼	-	
	在庫	6/11	1,498 ▲54 ▼	-	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	6/7 ~ 6/13	41.8 ▼-0.8 ▼	▼-18.1	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	6/7 ~ 6/13	41.9 ▲0.3 ▼	▼-18.8
		(TOCOM/中部)	6/13	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	6/13	103.5 ▲0.7 ▼	▼-19.4	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	6/5 ~ 6/11	121 ▼-30 ▼	-	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	58 ▼-84 ▼	-	
	輸出	"	0 →0 →	-	
	在庫	6/11	1,675 ▲62 ▲	-	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	6/7 ~ 6/13	41.4 ▼-0.1 ▼	▼-18.1	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	6/7 ~ 6/13	41.8 ▲0.3 ▼	▼-18.3
		(TOCOM/中部)	6/13	40.7 ▲1.0 ▼	▼-18.8
	小売 [週動向] (資工庁公表)	6/13	64.0 ▲0.5 ▼	▼-21.6	



■ 関連情報

1 海外/原油

15日のNYMEX市場のWTI原油は、前週8日の11ヵ月振りの51ドル台から、5営業日連続で下がった。

EIAの週間石油統計は、ガソリン在庫が市場予想を上回って減少したものの、原油在庫が90万バレル減と市場予想(230万バレル減)を大幅に下回った。そのため、市場では売りが優勢であったが、連邦公開市場委員会(FOMC)声明で利上げが先送りされたことによるドル安もあって、下げ幅を圧縮する場面もあった。

7月限の終値は、前日比0.48ドル高の1バレル48.01ドル、8月限の終値は、前日比0.56ドル高の1バレル48.50ドルだった。

EIAによると、6月13日時点のガソリンの小売価格は全米平均で前週比1.8セント値上がりの1ガロン2.399ドル(68.0円/ℓ)となった。ディーゼルは2.4セント値上がりの2.431ドル(68.9円/ℓ)。ガソリンは5週連続の値上がり、ディーゼルは10週連続の値上がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、6月5日～11日に休止したトッパー能力は、43.6万バレル/日と先週から2.9万バレル/日の減少。(全処理能力は381.7万バレル/日)。

原油処理量は330.2万kl、前週に比べ7.0万kl増加。前年に対しては35.8万klの増加。トッパー稼働率は77.7%と前週に対して1.6ポイントの増加、前年に対しては10.2ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてC重油のみが増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/3.7%減、ジェット/25.3%減、灯油/19.6%減、軽油/7.9%減、A重油/14.0%減、C重油/9.2%増。今週のC重油の輸入は5.1万kl(前週比4.1万kl減)。軽油の輸出は7.8万kl(前週比21.2万kl減)。

出荷(販売量)は、前週比ではA重油、C重油が増加し、その他の油種で減少した。前年比ではジェット、A重油が増加し、その他の油種で減少した。原油価格が高値で推移し、国内石油製品小売価格の値上がりが続く中、ガソリンの出荷は93.3万kl(対前週5.6%減)と2週連続で前週比、前年比で減少となり、2週連続で100万kl台を下回った。

ジェット8.2万kl(対前週23.7%減)、灯油5.8万kl(対前週58.8%減)、軽油56.2kl(対前週11.9%減)、A重油19.5万kl(対前週2.9%増)、C重油24.7万kl(対前週30.0%増)。

(単位:千KL)

	今週 (6/5 ~ 6/11)	前週 (5/29 ~ 6/4)	前週比	
ガソリン	933	988	▼ -55	(-6%)
ジェット燃料	82	108	▼ -26	(-24%)
灯油	58	142	▼ -84	(-59%)
軽油	562	637	▼ -75	(-12%)
A重油	195	189	▲ 6	(3%)
C重油	247	190	▲ 57	(30%)
合計	2,077	2,254	▼ -177	(-8%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

6月11日時点の在庫はA重油、C重油が取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対してはガソリン、ジェット、灯油が積み増し、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは186.0万kl、前週差3.1万kl増。前年に対しては9.7万kl多い。

灯油は167.5万kl、前週差6.2万kl増。前年に対しては18.6万kl多い。

軽油は149.8万kl、前週差5.4万kl増。前年に対しては10.7万kl少ない。

A重油は81.8kl、前週差0.4万kl減。前年に対しては1.4万kl少ない。

C重油は201.1万kl、前週差8.3万kl減。前年に対しては2.3万kl少ない。

(単位:千KL)

	今週 (6/11)	前週 (6/4)	前週比	
ガソリン	1,860	1,829	▲ 31	(2%)
ジェット燃料	1,030	977	▲ 53	(5%)
灯油	1,675	1,613	▲ 62	(4%)
軽油	1,498	1,444	▲ 54	(4%)
A重油	818	822	▼ -4	(-0%)
C重油	2,011	2,094	▼ -83	(-4%)
合計	8,892	8,779	▲ 113	(1.3%)

### 3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

6月7日から6月13日までの原油コストは、原油価格は値上がり、為替レートは円高で、ほぼ横ばいと見られる。

陸上スポット価格は、ガソリン98～99円台、軽油41～42円台、灯油41円台でやや軟化した。海上スポット価格は、ガソリン102～106円台、軽油44～46円台、灯油41～42円台でガソリンの値上がりが顕著、先物価格はガソリン98～100円台、軽油41～42円台、灯油40～42円台でほぼ横ばいだった。

EMGマーケティングは16日、18日以降出荷分の陸上外販スポット価格について、全油種据え置き旨を通知した。

### 3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

製品スポット市況は、海上物を中心に堅調に推移した。週間のガソリン販売量は、先週に続き100万Klを若干下回った。

6月第3週(6月16日～6月22日)適用の元売卸売価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(6月7日～6月13日/千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは0.5円、灯油は0.1円、軽油は0.8円の値下がりだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが3.1円、灯油は0.1円、軽油は0.7円の値上がり、先物価格は、ガソリンが0.3円の値下がり、灯油が0.3円、軽油が0.3円の値上がりだった。スポット製品価格は海上物を中心に堅調だったが、陸上物はやや軟化した。

6月第3週の大手元売の卸売価格は、据え置きだった。なお、元売会社は、2010年から卸売価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM)		(単位: 円/ℓ)		
[陸上ローリー4地区平均]	今週 (6/7～6/13)	前週 (5/31～6/6)	前週比	
レギュラー	45.1	45.6	▼	-0.5
灯油	41.4	41.5	▼	-0.1
軽油	41.8	42.6	▼	-0.8

(TOCOM)		(単位: 円/ℓ)		
[期近物/終値] [平均]	今週 (6/7～6/13)	前週 (5/31～6/6)	前週比	
レギュラー	45.8	46.1	▼	-0.3
灯油	41.8	41.5	▲	0.3
軽油	41.9	41.6	▲	0.3

※上記価格は税抜き価格

参考値 (6/7～6/13実績値)		(単位: 円/ℓ)	
油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -0.5	▼ -0.3	▼ -0.4
灯油	▼ -0.1	▲ 0.3	▲ 0.1
軽油	▼ -0.8	▲ 0.3	▼ -0.2
A重油	▼ -0.2		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バーージ渡し平均価格

### 4 国内/製品小売価格

6月13日時点におけるSS店頭価格は、ガソリンが前週比1.1円値上がりの123.6円、軽油は0.7円値上がりの103.5円、灯油は0.5円値上がりの64.0円だった。ガソリンは14週連続の値上がり、軽油は5週連続の値上がり、灯油は3週連続の値上がり。ガソリンは、14週で累計11.6円の値上がり。

都道府県別の動向として、ガソリンの値上がりは43都道府県、横ばいは1府、値下がり3県だった。都道府県別のガソリンの全国最安値は、千葉県(前週比0.9円高)の119.1円で、埼玉県(同0.1円高)が119.2円で続いている。最高値は沖縄県(同3.8円高)の132.4円だった。都道府県別で最も値上が

りしたのは高知県(同5.7円高)で124.7円、最も値下がりはしたのは奈良県(同0.3円安)の122.9円だった。

原油コストは小幅な上昇、卸売価格は据え置きだったが、前週までの卸売価格の値上がりの小売価格への転嫁が続くと見られ、次週の小売価格は、小幅な値上がりで見られる。

(資工庁公表) [週動向]		(単位: 円/ℓ)		
	今週 (6/13)	前週 (6/6)	前週比	直近高値
レギュラー	123.6	122.5	▲ 1.1	08/8/4 185.1
灯油	64.0	63.5	▲ 0.5	08/8/11 132.1
軽油	103.5	102.8	▲ 0.7	08/8/4 167.4

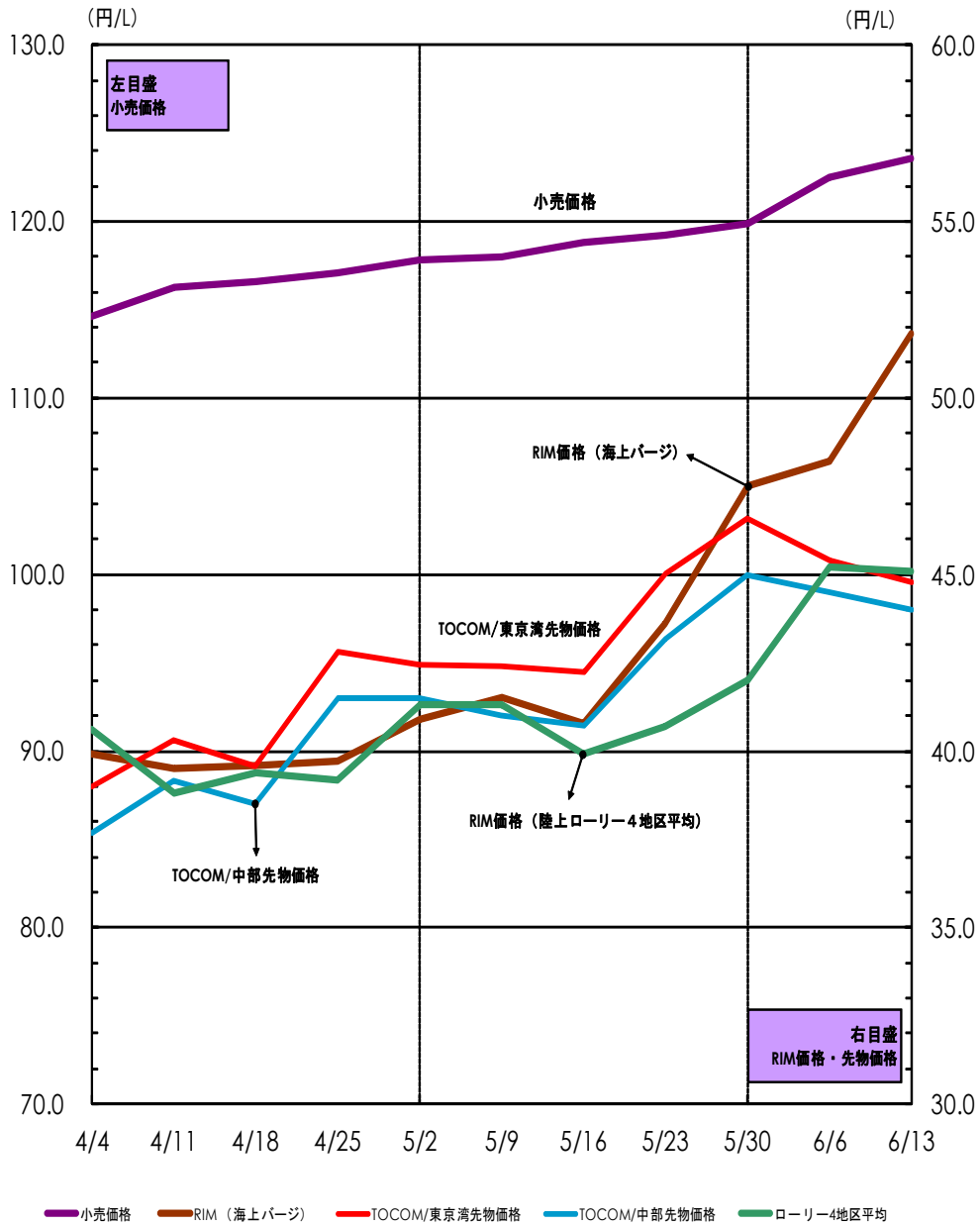
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

# ガソリン価格推移

(2016/4/4 ~ 2016/6/13)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格  
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

## ■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。  
次回(2016第12号)の公表は、6/24(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成27年9月末現在)は、12月16日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

### 本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。  
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。  
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

### 「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。  
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

### 本レポート掲載データの出所について

#### ①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。  
「出荷」は当センターの推計。

#### ②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange: NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。  
中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange: TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」  
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate: 中値)を採用。  
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

#### ③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

#### ④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

#### ⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。  
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

#### ⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。